

まちおこしの取り組みについて(参考資料)

毎年、相可高校1年生(約280人)にまちおこしのお話をしています。ある年、生徒の中に耳の不自由な生徒がいるとお聞きし、彼用に作った資料をデータ更新したものです。私の自己紹介とさせていただきます。外には出さずに、内部資料程度にとどめておいてください。

氏名 岸川 政之 生年月日 昭和 32 年 8 月 15 日生(54 歳)
 仕事 多気町役場 まちの宝創造特命監
 住所 (役場)〒519-2181 三重県多気郡多気町相可1600
 (自宅)〒519-2154 多気郡多気町多気32-2(JR多気駅の近くです)
 連絡先 0598-38-1111(職場)
 パソコンメールアドレス kishikawa@town.mie-taki.lg.jp
 携帯メールアドレス kishi.dream.0815@docomo.ne.jp
 気軽にメールしてください。ただし、自慢じゃないですけど、
 メールを打つのは遅いです！
 家族 母、妻、子2人の5人家族です。

S57. 4. 1 大学卒業後、多気町役場就職 税務課→教育委員会→総務課→
 農林商工課→住民福祉課→企画調整課→農林商工課→
 まちの宝創造特命監(現在)

《主な取組》

S62. 2. 21 ふるさと寄席結成 ふるさとも笑いの文化を！

…桂文我師匠の協力

年2回程度の落語会を毎年開催しています。

H7年には、4代目桂文我襲名披露を松阪市民文化会館大ホールにて
 主催し、1500人規模の会を成功させました。

その後、H8年には、「“小室等”十五夜コンサート」をふるさと村陶
 芸室にて行うなど幅広い文化活動を展開しています。

24年(現在 48回)も続いているって、すごいでしょ！！

S63. 8. 10 多気町長時間ソフトボールを仕掛ける

～8. 15

…記録達成し、ギネスブックに載る

大会時間 123時間32分 出場選手数 1,071人 687イニング

北軍 918点 南軍 908点 最長出場者 12時間31分

台風が来ていて、大雨洪水警報が出たり、雨よけに張ったテントが強
 風で20メートルぐらい飛んだり大変でした。

ピッチャーは、最後に踏み出す足のところがどンドン掘れていき、マウ

ンドは穴ぼこだらけにもなりました。テレビなどで青年海外協力隊が井戸がなくて困っているところへ行き、木や竹でやぐらを組み、鉄管をロープで引っ張りあげ、落ちる勢いで穴を掘っていくのを見たことがあるけど、本当に穴が開くんですね。

この挑戦のための準備やギネス申請の為の記録をまとめるのに、若い青年男女が4ヶ月間ぐらいほとんど毎日一緒に作業していたので、仲良くなって、その後、4組が結婚したっていうのも面白いでしょ！

H 8. 10. 5 多気町役場～熊野まで、町内青年で結成した20代チーム(9人)と30代チーム(8人)の2チームでリレー駅伝をする。

走破距離 114kmのうちのトンネル等を除いた85. 5km

時間 30代チーム 6時間17分ジャスト

20代チーム 6時間17分19秒

めっちゃめっちゃえらかった。最初は勝負にこだわり2チームで駅伝レースをしていたけど、途中から敵味方もなくなり、どちらの選手にもみんなが応援をするように変わっていきました。ゴールした熊野の海岸では、みんなでビールを飲みながら、つめたい海に飛び込む者もいるなど暗くなるまでいろいろな話をしました。

青春ドラマのようにすがすがしい満足感でいっぱいでした！

H12. 4～ 農業振興に取り組む。

僕は、非農家ですが農業が大好きです。だから農家の友達も多いし、いろんな取組もしています。

◎H13. 3. 6 伊勢いも研修会 生産研修会

農学博士 梅崎輝尚氏（三重大学生産資源学部）を招き、他地域の山いも等の現状や取り組みの紹介、研究者の目から見た伊勢いもの将来性などについて講演いただき、今後の取り組みの参考にする。

◎H13. 12. 13 第1回多気町特産品加工・販売研修会

最先端の加工業者を招き、伊勢いもの加工品への可能性を研修するとともに販売の新しい方向を摸索し、伊勢いも振興につなげていく。

◎H13. 9. 13 町の花「マリーゴールド」による線虫防除実験

◎H14. 3. 19 伊勢いも「竜頭」栽培実験開始

◎H14. 2. 9 おいしい多気町まるかじりフェスティバル

多気町の農産物とその生産者にスポットを当てた行事で、1部では伊勢いもを食材に加藤敏彦先生料理講演会を開催し、2部では試食会を相可高校食物調理クラブの協力で伊勢いも入りうどんをはじめ30種類の料理の試食会を行った。

◎H14. 12. 13 第2回多気町特産品加工・販売研修会

相可高校食物調理科の協力を得て、次郎柿加工品（商品価値のないランク外の柿を使用）や「とろろ麺」の試食会、伊勢いもの加工状況等の報告及び研修会を行う。

H14. 3~ **伊勢いも入り手延べうどん「とろろ麺」の開発及び販売(7月)開始**

最初に仕掛けた加工品です。相可高校食物調理科の協力で作りましたが、とても美味しく人気のうどんに仕上がりました。ふるさと村でしか売ってないけど、「まごの店」では食べられます！

H14. 10. 26 **多気町五桂池ふるさと村の農産物直売施設「おばあちゃんの店」の前に相可高校食物調理科の料理研修施設「まごの店」(旧)オープン**

H15. 3. 26 **磯部町の3000頭を飼育する養豚農家に発酵床システムを指導**

私の家は農業をしていませんが、土作りを勉強する過程で取り組んだ発酵床システムが反響を呼び、大それたことに他の町の養豚農家の指導などもしました。

H16. 1. 1 **新規就農者(20代のカップル)、農業スタート**

H15 年 8 月、突然 25 歳と 22 歳のカップルが農業をやりたいと訪ねてきました。土地も金も家も無いけど、情熱一つで夢を語る二人に感動し、借家探しや田畑探しから、理想の農業論、農家のネットワーク・流通のネットワークの話や紹介等、深く係わり合いを持ってきました。

今も彼らとは、よく一緒にご飯を食べています！多気町の町勢要覧の 22 ページの上に写真が載っています。

H16. 4. 1 **少年サッカークラブ『多気FC』設立**

有志のサッカーサークルとして子どもたちを指導していたが、松阪大学の協力により、名誉顧問に城監督を迎え、松大サッカー部による特別指導も受けられる多気FCを立ち上げました。現在は後継者に譲り、後方支援に徹しています。

H16. 4. 1 **相可リサイクル協議会設立**

地域住民がリサイクルを意識し、PTA、少年サッカー、少女バレーの活動を安定して支援するため、年 2 回行っている廃品回収の収益金を管理する協議会を設立しました。仕組みが続くことを確認し、現在は役を退いています。

H16. 5. 12 **NPO法人 三重スローライフ協会設立**

NPO法人「三重スローライフ協会」の理事として、仲間と共に立ち上げから参加しました。「三重スローライフ協会」は、未来に向けてより望ましいライフスタイルを提案するとともに、その実現に向けて食農教育・環境教育・地産地食運動に関する事業を行うボランティア団体です。

- 5つの種をまく
1. 平凡人生・・・スロースタイル
ゆったりとした循環と生き甲斐を育てる種
 2. 農村産業・・・スローインダストリー
環境に配慮した地域産業を育てる種
 3. 地産地食・・・スローフード
自然と伝統の味覚を育てる種

4. 天習地学・・・スローエデュケーション
食農や環境を学んでいく種
5. 天然活用・・・スローエネルギー
資源について考える知恵を育てる種

こんなスローガンのもとに活動しています。

H22年5月には、仕事が忙しくなかなか参加できなくなっていて、3期（6年）続けた理事を辞め、現在は応援団にまわっています。

H17. 2.19 新しい相可高校食物調理科の調理研修施設「まごの店」オープン

『料理家を目指す高校生の夢を建築家を目指す高校生が形にする。それを周りの大人たちが応援する。』をテーマに県内の建築科のある4つの工業高校に設計コンペをお願いし、創作料理の出せるレストランを建設しました。この仕掛けはとっても面白く、村林先生の本「高校生レストラン、本日も満席」の中にも紹介されています。

H17. 9. 1 伊勢いも焼酎「多氣」発売

伊勢いも生産者の協力を得て、売り物にならない形の悪い小さな伊勢いもを集めて焼酎を造りました。焼酎は、むきにくい伊勢いもの皮をむかなくてもよく、発酵させてそれを蒸留して作ります。とっても美味しいとソムリエの田崎真也さんにもほめられました。

この伊勢いも焼酎「多氣」は、伊勢いも農家へのエールなんだ！

20になったら飲んでみてね！

H19. 5.29 『多気町まちづくり仕掛人塾』発足

現在、10のプロジェクト委員会が進行中。

多気町内外で活躍する26名のボランティアが運営するまちづくりのプロデューサー集団です。

年2回の総会にて、地域がよくなる取り組みを各プロデューサーが提案します。出席者の過半数がOKならその提案はプロジェクトとして立ち上がり、賛同するプロデューサーがそれに参加をしていきます。これまでに10個のプロジェクトがたちあがりしました。

この活動は、三重県でも評価されています！

①『あじさいまつり』姫委員会 ②『丹生大師湯』委員会

③街道まちづくりを語る会（和歌山別街道丹生大師付近^{にゅうのだいし}）

④街道まちづくりを語る会（熊野街道女鬼峠）

⑤『クリスタルタウン』環境活動委員会

⑥長谷地域づくり委員会 ⑦車川物語制作委員会 ⑧遊休農地活性化委員会

⑨イベント委員会

⑩おすそわけプロジェクト

H20. 9.18 『せんぱいの店 マックスバリュ』オープン

株式会社 相可フードネット

相可高校食物調理科への仕掛けの仕上げとして、村林先生をはじめとするたくさんの方の協力を得て、地域の人たちと協働しながら運営できる食に関する会社を立ち上げました。このお店は、地産地消の考えの下、食物調理科OBたちの受け皿を作るという大きな意味も持っています。その最初の取組として、惣菜とお弁当の店「せんぱいの店」がマックスバリュ多気店の中にオープンしました。調理人として、「まごの店」OBも3人参加しています。応援して下さいね！

H22. 4. 14 『せんぱいの店 ふるさと村店』オープン

「多気町五桂池ふるさと村」にある農産物直売施設「おばあちゃんの店」の同じ棟の向かって左端にあった使っていない加工施設にテナントとして「せんぱいの店」が入りました。

◎「せんぱいの店 ふるさと村店」の役割

1. 三重県より指導を受けていた、農産物直売所「おばあちゃんの店」の1階の加工施設コーナーの有効利用
2. 農産物直売所「おばあちゃんの店」、高校生のレストラン「まごの店」、相可高校食物調理科卒業生が主となって運営する「せんぱいの店」の3つが一体となって“食のストーリー”を完成し、ふるさと村の活性化に寄与するとともに地域全体にも明るい話題を提供する。
3. 地域の食材を出来る限り使用し、地産地消を推進するとともに地域食材のPRを行い農業振興に寄与する。
4. ふるさと村の食堂にメニュー提案や食材等を提供し、平日の入込客数のアップを図る。
5. 地域の食材を使用した新しいご当地メニューを開発し、地域の飲食店等で提供できるようにする。

H22. 5 相可高校生産経済科生徒がプロデュースした

「まごジェル」(ハンドジェル)の製造

私たちの住む多気町は、古語によりますと食べ物がたくさん取れるところという意味があると聞きます。そのとおり、豊富な農産物に恵まれ農業の盛んな町です。その農産物を成分に入れたハンドジェルを相可高校生産経済科生徒が作りました。

名前は、「まごころ t e a ハンドジェル」、通称「まごジェル」です。

テーマは、『孫のような高校生が、おじいちゃん、おばあちゃん、あるいはお父さん、お母さんへ感謝の気持ちを込めてプレゼントできるようなハンドジェル』と生徒たちが考えました。

生徒たちがハンドジェルのコンセプトからパッケージデザイン、ネーミング、入れ込む成分まですべてをプロデュースし、町内の万協製菓

(株) が製品化するというものです。

また、作る過程も面白いのですが、私がドキドキするのは、生徒が出来上がった製品を東京や名古屋などに出向いて営業活動をし、いろんな人と会っていろんな経験をすることです。

もちろん販売等のすべての責任は、相可高校食物調理科OBが中心となって運営する総菜とお弁当の店、(株)相可フードネット「せんぱいの店」が持ち、めんどうくさい税金処理をした後、利益を生産経済科が立ち上げた、NPO法人「植える美ING」に戻します。

さらに学校にも通販用のパソコンを置き、通販を行うなど経済活動の実践を行います。どうです、楽しそうでしょ！

◎この取り組みの客観的評価

①経済産業省がH23年3月に発行した、「ソーシャルビジネス・ケースブック」に120の事例が取り上げられましたが、巻頭特集の2番目に掲載されました。

②(株)近江兄弟社が、高校生が考えたこのブランドを第2ブランドとして立ち上げ、リップクリームや日焼け止めクリームなどを高校生とのコラボで全国展開していく。

H22. 9. 24 23年度末廃校が決まった北海道三笠高校の市立運営化決定

事の起こりは、H21年3月下旬、三笠市教育委員会から2人の職員の視察を受け入れたところから始まりました。視察の目的は、この町の北海道立三笠高校の23年度廃校が決まり、それを三笠市立の高校として、また普通科を食物調理科に学科改編し、地域の農業を巻き込んでやっつけようということを検討しており、多気町の県立相可高校食物調理科の取り組みを研修したいとのことでした。2泊3日の熱心な研修のもと三笠に帰っていききましたが、その後教育委員会に高校存続のための部署ができ、その新しい担当者が8月に同じく2泊3日で研修にきました。11月には、市議会議員全員の視察も受け、三笠市が真剣に取り組んでいることを実感しました。

H22年の7月には、三笠にて多気町の取り組みについて200人ほどの参加者の前で講演する機会がありました。当時は三笠高校市立化の可能性は、半分あるかないかという情勢でした。

私は、講演の席で、三笠市立での存続をした方が良くとか止めた方が良くとかを話すつもりはなく、①多気町の取り組み、②高校という年を取らない組織が市になくなる影響などを中心に話をしました。質問も多く、熱のこもったいい時間を過ごさせていただきながら、大きな歴史のターニングポイントに立っていると実感しました。

H22年9月24日、三笠市議会9月定例会にて三笠高校の24年度からの市立での存続が正式に議決されたのです。

モデルになるのは、相可高校食物調理科です。

私たちは、全面的な応援をしていきたいと考えています。

《朝日新聞より抜粋》 2012年3月で閉校する道立三笠高校を、翌4月から市立高校にして存続させようと、三笠市が取り組んでいる。「教育や企業誘致などまちづくりの観点からも高校は絶対必要」とする市が知恵を絞った構想は、「食のスペシャリスト」を育成する全寮制の職業学科の高校に「変身」させるという内容。14日開会の定例市議会に設置条例案を提出し、10月には道教委に設置認可を申請する計画だ。

かつて炭鉱で栄えた同市。人口はピークの約6万3千人（1960年）から約1万5000人に減り、65歳以上の高齢化率は42%。三笠高校は戦中の45年に採鉱科だけの町立三笠工業学校として開校。49年に道立に移管され、51年の普通科の設置とともに現在の校名に。生徒数は最多の66年に約1500人を数えた。

現在の4階建ての校舎は82年に新築された。「当時は普通科に家政、自動車、土木科があり1学年8学級だった」と同校OBの市幹部は懐かしむ。今は生徒が2、3年生合わせて24人しかいない。

閉校は07年の道教委の公立高校配置計画で決まった。市内では唯一の高校存続を求める集会や署名運動が展開されたが見直しはされず、市や教育関係者、小中高PTA、商工会などの代表などで行く市高校問題対策協議会が「新高校として存続を目指す」ことを決定。市教委などが市立化の可能性を検討してきた。

閉校する道立高校が市町村立に変わって存続した例はないというが、既存の市町村立高校には、独自色を出して道外から生徒が集まる学校も少なくない。市教委は、道外の高校の情報も集め、検討した。

その中で着目したのが、生徒がクラブ活動でレストランを運営する三重県多気町の県立相可（おうか）高校の食物調理科。視察などを重ね、新しい市立高校は、調理師、製菓の2コースがある食物調理科（1学年40人）だけの全寮制にする構想をまとめた。

大きな特徴は、卒業時に調理師免許を取得できるよう授業を組み、生徒が就職しやすい環境をつくること。職業科は学区規制がないため道内外から広く生徒募集できるうえ、調理実習などで地元農産物を使うことで、まちの活性化にもつながるとしている。

市教委の担当者は「同様の学科は札幌と函館の私立高にもあるが、公立はない。近隣にない特色ある学科なので他と差別化できる」。校舎と敷地は道から譲渡を受け、寄宿舎は雇用促進住宅を取得して改修整備する計画だ。

一方で、市民の間には懸念もある。5、6月に8カ所で開いた市民説明会には計約200人が参加。「生徒が確保できるのか」「学校運営の財政負担が大きいのでは」といった声が出た。市や市議会に再検討や「十分な審議」を求める動きも相次いでいる。

財政負担はどれくらいなのか。市教委の試算によると、開校前の校舎と寄宿舎の改修費が約1億1千万円。運営費は開校当初、生徒数が定員の50%だった場合で年約1億2千万円。このうち教職員の給与は国から交付されるため、市の実質負担は約6千万円という。

3年後、生徒数が3学年とも50%なら、負担は年約2500万円程度。定員(120人)に達していれば1千万円以下で、生徒の確保で負担額を抑制できるとしている。

閉校すれば、その影響は市税収入や教職員らの地元消費など年1600万円の損失となり、逆に存続すれば市税収入や寄宿舎運営費、教員生徒の地元消費などで年9千万円程度の経済効果が見込めると試算している。

市の強気の姿勢の背景には、炭鉱閉山(1989年)後、青息吐息だった財政運営が財政健全化の進行で好転したことがある。一般会計の黒字は04年度の約600万円から、08年度は約2億1千万円に。09年度は市立病院の累積赤字約5億円を一般会計からの補填(ほてん)で解消したうえ、2億円規模の黒字が見込まれている。安定した財政を土台に、若者が全国から集まる仕組みをつくりたい考えだ。

H23. 5.7 『高校生レストラン』……日本テレビ系列で毎週土曜日午後9時から連続9回で放送開始。

H23. 7.7 著書『高校生レストランの奇跡』(伊勢新聞社) 発行

K塾主催……随時開催

熱い仲間が、町内はもとより東京や名古屋、京都、兵庫などからも集まり、その時々テーマで勉強会をしています。年齢も20代から70代まで、職種も農家や、医者、教授、官僚、社長などばらばらで、いつも50人ぐらいが集まって賑やかで楽しい会になっています。

今日は、話を聞いてくれてありがとう。ハンディを持っていると松岡先生から聞いたけど、いつも私が思っていることを最後に君に言います。

それは、「**限界を決めているのは自分**」だということ。結局自分の可能性をつぶしているのは、他人ではなく自分だということ。何事にも明るくチャレンジする気持ちを忘れずに、学生生活を前向きに過ごしてください。今日は、ありがとう！お互い頑張りましょう！